

静脩

1995年12月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 32, No.3

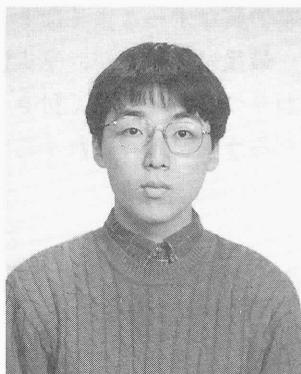
もっとよくなる、

もっとよくなる

京大図書館

理学部3回生 清水 健太郎

私をはじめ京都大学附属図書館に入ったのは高校の修学旅行の時であった。カウンターへ行って、見学させてもらえないでしょうか、という、本当はダメなんだけど、と言いつつも中へ入れてくれた。階段をのぼると、ずらっと並ぶ本、本。一面に広がる勉強机。なんと立派な図書館なのだろう。京大見学といつつ図書館しか見る時間がなかったため、京大の建物はきれいなのだという大きな誤解を抱きつつ1年後に受験することになる。



私は図書館というものが好きである。本を読むのも好きだが、図書館の棚の前でたくさん本を眺めているのも好きである。この趣味から図書館学の講義をとり、その縁でここに文章を書かせていただくことになった。こんな視点で京大附属図書館について述べてみたい。

まずは機能面である。先にも述べたように建物は京大の中にあって飛び抜けて立派である。そしてサービスはどんどん良くなってきている。日曜の開館をはじめとして、論文を検索できるCD-ROMの導入もあった。理学部中央図書室もそうであるが、やがて来るであろう電子図書館時代に着々と備えている。が、一方で確かに問題点は残っている。例えば新しい本しかコンピュータ(OPAC)で検索できないということである。データの打ち込みが気の遠くなるような作業であることが分かるのであまり強く言えないが、「静脩」1995年6月号で長尾新館長が実現への強い意欲を示していた。それに期待したい。

このように機能面で優れていると思うのだが、惜しむらくは宣伝が行き届いていないことである。友人のなかでも、レファレンスサービスやCD-ROMが図書館にあることを知っている人はあまりいない。これは私にはとても残念である。

次に雰囲気について。実は附属図書館の雰囲気

気は今一つ好きになれない。悪いというつもりは全然ない。しかし、私にとっては図書館は長い時間を過ごす場所であり、ぼんやり本をながめる場所であり、また探せば1人や2人はすぐに知り合いが見つかる交流の場でもある。最高によい場であってほしい。

雰囲気作りでの問題点は2つあると思う。まず1つ目に、きれいさっぱりし過ぎているのである。2階の勉強机など、まさに勉強するためのだけに作られている。よく言えば機能的なのだが、それでは長い時間いる場所として物足りない。

これと逆にいい雰囲気だと思うのが、例えば理学部動植物図書室である。部屋に入るとまずウシの頭骨が目につく。棚や机を見れば、花はもちろん地球儀がある、オーム貝がある、クワガタムシがある。ポリネシアの絵葉書もきれいだ。部屋が小さいから良い感じだというのもあるが、ここなら心から落ちついて論文を読んでいられる。

附属図書館ではカウンター付近に花が飾ってあったくらいしか記憶にない。今の状態だと、高校の時に感動した立派さが逆に欠点になりかねない。ちょっとした物を飾ってみるだけで

いぶん雰囲気は変わらと思う。しかし、きれいすぎる、などと思うのは、京大のきたない建物に慣れすぎてしまったからだろうか。

2つ目は、小説類など気軽に読める本が少ないことである。勉強していてちょっと休もうかというとき読みたくなる。これは一般の図書館の果たすべき機能なのだろうが、京都市は図書館があまり整備されておらず、京大周辺には十分な小説類をもった図書館がない。大学図書館に期待するのは間違っているかもしれないが、整備されると、私にとっては水を得た魚で、とてもうれしい。

こういったことのために、図書の購入希望をもっと活用できないものだろうか。まず、もっとリクエストが増えていいと思う。そしてまた、リクエストを出したのに購入されなかったという声を友人から何度か聞いた。図書購入費が不足しているのは分かるが、利用者のリクエストの数と実際の購入の数と両方ともに増えると、本の質がずっとよくなると思う。

最後になったが、京大図書館は今、急速に変わりつつある。長く付き合っていくことになるだろう図書館、これからも楽しみである。

一つの業務改善の試み -附属図書館相互利用掛-

附属図書館情報サービス課

相互利用掛 長坂みどり

はじめに

相互利用・相互貸借（ILL=Inter Library Loan）とは、資源共有の理念のもとに図書館と図書館が、現物貸借や文献複写サービスにより利用者の情報収集に便宜を図るサービスである。附属図書館は、全学の窓口館として学内利用者の現物貸借や私費による文献複写依頼、国公立大学・その他の機関などからの利用を受け付けている。平成6年度の相互貸借業務全件数は、

約21,000件である。相互貸借件数は、年々増加し、そのサービスも多様化・高度化している。NACSIS-ILLシステム（On-Lineによる相互貸借サービス）が1992年に稼働し、その年の後半には、国立大学図書館の90%がシステムに参加した。京都大学附属図書館でもこのシステムを利用しているが、いろいろな問題を抱えたまま業務を進めてきた。

情報化・機械化社会といわれて久しいが、図

費やしていた。「記帳すれば一覧できる」ということは、受付だけで15,000件を超えては不可能に近い。システムには多くの検索方法が準備されており、データも3年分が即時に検索でき、それ以前のデータもバック・ファイルに保存されているのである。

問題点3：全体と状況を見る力の不足

システムから打ち出す帳票に相手館の依頼先がでてこないというローカルシステムの欠陥があった。附属図書館は窓口館として、多くの部局図書室への依頼を受け付けている。相手館の指定した所蔵館が帳票上にあらわれないので、再度調べ直す必要があり、大変手間がかかった。これも重大な問題点であったが、この手間が業務遅滞の最大の原因で、これが改善されない限り業務改善はできないと、他の問題が見過ごされていた。

問題点4：解決法の誤り（一時的解決法と長期的解決法）

平成6年度は300件以上の滞荷のでる日が続いている。仕事量の分析をして、システム上での受付処理能力は、36冊／1日という数字がはじき出された。受付件数は、1日70～80件あるので、平成6年10月から3月まで毎週木曜日、さらに滞荷が増えたときはシステムによる受付を休止し件数を減らす方法を取り、休止延べ日数30日に及んだが、受付件数が減っても処理能力は変わっていないので、掛員に楽になったという実感はなかった。

仕事のやり方を変えず、受付を絞っただけでは、根本的な解決にはなりえなかった。

問題点5：部局図書館の窓口館としての役割

京都大学では、医・薬・農・総合人間の各学部、人文科学研究所が受付館になっているが、附属図書館は、それ以外の部局図書室の窓口館となっているので、自館に所蔵していない文献の複写もしなければならない。バス停でいうと南北に4つ、東西に5つにわたるキャンパスを徒歩や自転車で走り回らなければならないし、遠隔地の研究所にも対応しなければならない。

その労力は、自館資料の複写に比べ何倍にもなる。

解決法・対応策

毎木曜日を受付休止日にしたことは、他の国立大学の不評を買った。受付休止日を設定したくないというのは、全員の気持ちであった。平成7年5月に、いろいろ仕事を見直し、業務改善をする必要があるということで一致した。従来のやり方を変えるのに、1年かけて考える案も出たが、変えられるならいまずぐ変えていくことになった。やってもやっても報われない現状に何か無駄をしているのではないかという不安が募っていたのであろう。

そこで、業務分析を再度検討し、改善することで不都合がでないか、新たな問題はないか十分考慮しつつ改善の方策を考えた。



詰まるところ、文献複写業務はこれだけのことである。業務の流れを簡素化し、無駄な作業は省く。処理能力を高め、利用者へのサービス向上に努める。

但し、統計に対応できること、事務処理上不要の手際のないようにする。

方策1：記帳をやめる

15,000件の記帳は労力の割に実効力がないので、今後はやらない。記帳を辞めるだけでもかなりの省力化になる。システムでの申込であれば、申込個々のID番号で瞬時にその情報が検索できる。マニュアルであっても必要なら申込書の控えがあるのだからそれを繰ればよい。

方策2：ILLシステムのメリットを有効に利

用する

ILLシステムでは、文献複写の依頼の相手館を5館まで指定できる。単純に考えれば、5館目でも断られる確立は1/32となる。従って、無理に依頼を抱え込んで処理を遅らせるより、早く処理のできる図書館に回す方が適切である。

当然システムは、謝絶すると自動的に次館へと転送してくれる。附属図書館所蔵や早く手に入る部局所蔵資料の早い処理を心がける。

方策3：掛員間の仕事の枠にとらわれない

掛全体の仕事を全員が知ることで、自分の分担、他人の分担という仕事の枠と遠慮の枠をはずす。各々の仕事で主になる担当者はいるが、全員が掛全体の仕事を理解し、状況を見て動くことができるようにした。

方策4：環境の改善

ローカルシステムのプログラムを修正し、システムから打ち出す帳票の手直しをした。今回、自分達で業務を見直し、改善の努力をする過程で掛を越えて支援を受けることができた。今では、所蔵の二重調査が不要になっただけでなく、何か所もの手直しをして、使いやすい帳票になった。

おわりに

今回のこの改善の報告を書くに当たって、掛員全員に了解を求めた。「このようなことが、他の図書館の参考になるのか？ここだけの特異事情ではないか？」という懸念もあった。しかし、これが附属図書館相互利用掛の現実であった。

この例は、歴史が古く、超大規模大学であるが故の問題であるかもしれない。

しかし、図書館をとりまく環境は、日々変化し、多様化している。無為に対応すると、職場はたこ足状態、迷路と化し全体を見回すことのできない状態に陥る危険性がある。改善を行った今、ILL処理量は65件/1日も可能になり、かつ処理も早くなった。謝絶する件数が増えたにも関わらず、受付件数は4月～12月の9カ月ですでに平成6年度1年分を超えてしまった。サービスをすればするほど増えるのが相互貸借である。

しかし、以前に比べ確実に残業は減り、処理件数が増えても今の方が楽になった。以前のあの苦しさは何だったのだろうというのが感想である。掛全体として自ら仕事をかってでたり、よりよい方法を探るなどより積極的に仕事に関われるようになった。

今回の改善は、ほんの少しの発想の転換と掛員全員の「相互貸借は、図書館利用者へのサービスの最前線」という気概の下、誠意ある努力の結果成しえたものであると思う。

図書館は、進化する生命体であり、図書館を支える我々も健やかな活動体でありたい。まだ、問題点5にあげた部局図書室との関係など、全学的な対応の必要な問題は残っている。今後は相互貸借を含め図書館サービスのあり方について京都大学の図書館員全体で考えていくことができればと願うものである。

電子図書館ワーキンググループの活動について

はじめに

附属図書館では、昨年9月26日から10月28日まで開催された展示会「吉田松陰とその同志」に併せて、電子図書館システム「Ariadne」のデモンストレーション（以下、デモ）を行いました。しかしながら、このデモで電子展示できた資料は約60点にすぎず、外部からのアクセスも

できないこともあって、質・量ともに予備実験の段階をでないものでした。このため、デモ終了後に、新たに電子図書館ワーキンググループ（以下、WG）を発足させ、本格的な電子図書館への取り組みを開始しました。これまでの活動と今後の予定について、お知らせします。

1 これまでの活動について

電子図書館については、国内・国外を問わず多くのプロジェクトがあり、様々な形態で研究が進められています。ただし、どれもがその基盤としているのは、インターネットによる情報通信です。このため、WGの活動の第1段階は、インターネットへの理解を深めることとしました。現在は、第2段階に入っていますが、ここではWGをふたつに分け、1つのグループでは実際にWWWのホームページを作成することになっています。これは、URLの公開は1月におこなう予定です。もう1つのグループは、電子展示する資料の準備をしています。デモでは、画像データと解説だけでしたが、これに書誌的事項も付与し、点数も数千のオーダーにする予定です。展示内容は、当面、デモでも公開した維新特別資料（尊攘堂資料）を計画しています。

2 電子図書館開発室の開設について

電子図書館の研究・開発・作業のために、画像入力システム・日本語OCR装置・検索システム等を集め、電子図書館開発室(D-Lib 開発室)が、附属図書館4階に開設されました。8

月以降は、この部屋の機器を使って、具体的な入力作業が始まっています。画像データは、イメージスキャナー、VTR、LD、ハイビジョンカメラ、Photo-CD等、各種媒体から入力が可能です。入力されたデータは、同じ4階の電算機室に設置されたセンターサーバに転送し、WWWによる試験公開を予定しています。

3 今後の予定について

電子図書館システムの開発そのものは、電子図書館研究会（代表：長尾附属図書館長）が担当しており、WGはデータの作成及び入力とシステムの評価を担当することになります。このため、今後の予定としては、附属図書館の所蔵する重要文化財をはじめとする貴重図書等の画像データの作成と入力を中心となります。それとともに、入力した画像データについて、検索手段の提供、書誌データ等関連するデータとの連携を行い、これらをもとにシステムの総合評価を行っていきます。これを、電子図書館研究会へフィードバックしていくことによって、実用的な電子図書館システムの実現に協力します。



開室された「D-Lib 開発室」

附属図書館が変わります!

1. 平成8年4月から入退館機が新しくなります。場所も現在のところから入口寄りに設置されます。新聞ラウンジ・目録カード室にも、入館機を通して入っていただくことになります。一旦入館すると、カード目録を引くためにいちいち入退館機を通過していた今までの煩雑さが解消されます。

またこれに伴って、インフォメーションカウンターも移動します。

2. 目録カード室のカード箱を並べかえて(量的には変化ありません)、新聞ラウンジを広く

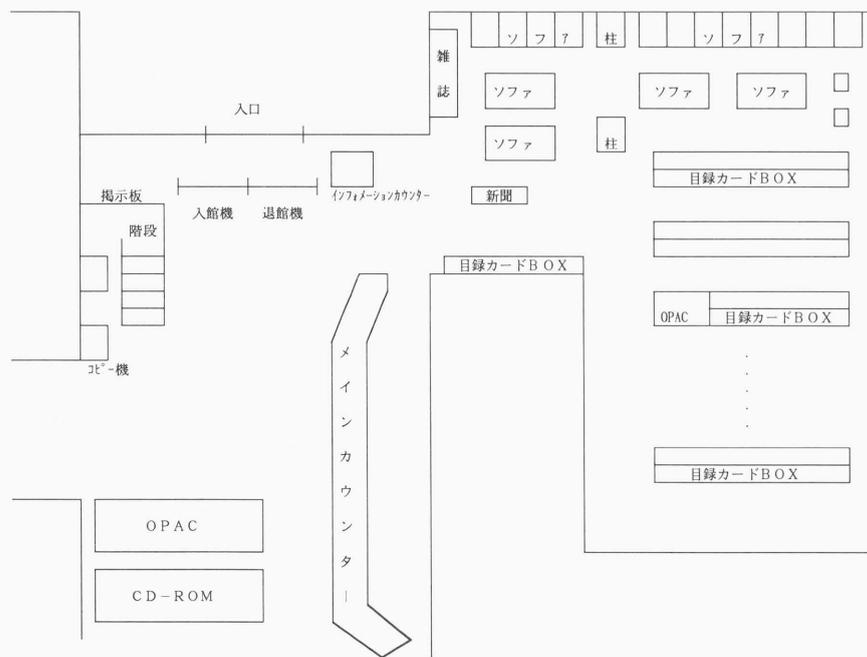
し、座席数を増やします。2階の雑誌を1階のラウンジに移し、くつろいだ空間で読んでいただけるようにします。

3. 分散していたCD-ROM、OPACをメインカウンター前にまとめます。

大きく変わるのはこの3点ですが、その他にも若干の移動を検討しています。

利用される方々に使いよく、かつ明るい図書館を目指しています。

変更後の附属図書館1階のレイアウト



図書館利用証もかわります

当館で発行している図書館利用証のID番号はOCR式(算用数字)を使用していますが、平成8年4月の当館での入退館システム機器更

新を機にすべての図書館利用証をバーコード併記式にします。

利用証表面にバーコードが記載されていない

利用者の方は平成8年2月13日(火)から3月29日まで、附属図書館(特設交付所)にて現在使用中の図書館利用証と交換して下さい。交付時間は月～金曜日の9:00-17:00です。

なお、平成7年4月以降に交付された図書館利用証の表面には、既にバーコードが入っていますので交換の必要はありません。

現行の利用証



変更後の利用証(例)



このカードでないと附属図書館へは入館できなくなります。

教育研究学内特別経費で図書の実充

平成7年度教育研究学内特別経費で大学院生用図書・参考図書の更新充実経費(約550万円)が措置されました。総貸出人数49,397人中、

11,768人(23.82%)が占める大学院生(研修員を含む)向けに、図書・参考図書の更新充実を早急に図ります。

平成7年度図書資料大型コレクション購入決定

経済学部から推薦のあった大型コレクション Sammlung von Amtlichen Nachrichten über die Arbeitsverhältnisse in Deutschland.

Vom.19. Jahrhundert bis zur Gegenwart. (ドイツ雇用・労働関係基本公報集成)の購入が決まりました。設置場所は附属図書館。

洋図書の遡及入力作業について

附属図書館では、本年3月末を目標に、京都大学で昭和61年度以降に受入れた洋図書約4万冊の目録データを入力する作業を行います。これにより、「新収洋書総合目録(国立国会図書館

編集)」と併せれば、本学で戦後に受入れた、ほぼ全ての洋図書の情報をご提供できるようになります。

入力作業には、附属図書館に設置の総合目録

カードの一部を使います。このため、作業期間中は目録カードによる蔵書検索についてご迷惑

をおかけすることになりますが、よろしく御協力のほどお願いいたします。

「研究開発室」(仮称)の設置について

附属図書館においては、昭和59年12月附属図書館商議会の決定により現行の「附属図書館調査研究室」が設置されることとなった。その設置の目的は「1.図書館資料の整備並びに図書館業務の電算化にかかる諸問題の調査研究を行う。2.貴重図書等の解題に関すること。3.図書館職員の研修計画に関すること。4.その他図書館業務の推進に関し助言を行うこと。」となっており学内教官の協力(附属図書館長が委嘱)を得て、個別案件に対処し、着実に成果を挙げてきた。

一方、昨今の図書館界を取り巻く状況の急激な変化や利用者の多様なニーズ等に的確かつ迅速に対処していくためには、今後の大学図書館の在り方を考えるとき、その一層の充実強化について真剣に検討を行わなければならないとの認識に達した。

時あたかも、大学組織に対して自らの自己点検・評価が厳しく求められている中で、文部省学術審議会学術情報部会は平成5年12月「大学

図書館機能の強化・高度化の推進について」(報告)を発表し、その中で、大学図書館が研究・開発機能を持つことの必要性和大学図書館員自身の研究・開発能力の育成の必要性について触れられた。このような中で個々の大学図書館における検討が、国立大学図書館協議会をも動かすこととなり、平成7年度の文部省等への要望の重点項目として、取り上げられたところでもある。

本学附属図書館においては、前述の調査研究室を発展改組する方向で附属図書館商議会議等での検討を進めてきた結果、まず、学内組織として発足させる方向で了承され、今後は部局長会議の議をへて、平成8年度からのスタートを待つばかりとなっている。室員は、これまでの館長委嘱から総長による委嘱となる予定である。当面、平成9年度概算要求に正式に盛り込む予定であるが、関係当局との折衝がその行方を左右することとなる。

マルチメディア端末クラスタの設置について

平成7年度に、第2期のKUINSの一環として導入されるATM-LANに伴い、附属図書館及び大型計算機センターに、マルチメディア端末クラスタが設置されることとなった。

この端末クラスタは、ATM-LANに接続されたパーソナルコンピュータであり、さらにモニターカメラ、ビデオボード等も装備されて

いる。これによって、これまで実現できなかったテレビ会議等が可能となる。

附属図書館では、20台程度の端末クラスタを一室に集めて、図書館利用者に広く利用していただく予定である。公開の際には、多くの方にATM-LANの可能性を実感していただければ幸いである。

京都大学インターネット講習会

(第3回高度情報化フォーラム)

昨年9月18日～20日にかけて開催した京都大学インターネット講習会は大変盛況であった。その際講習会に応募しながら受講できなかった職員を対象に再度実施することになった。

日 時：平成8年1月23日(火)

9：30～17：00

場 所：附属図書館
情報処理教育センター

受講対象者：学内図書系職員等

近畿地区国公立大学図書系職員

平成7年度 展示会報告

附属図書館では、本年度2件の展示会を開催し、盛況のうちに終了した。

附属図書館秋季展示会

「舎密局から三高へ」

10月16日(月)から27日(金)まで

会 場：附属図書館展示ホール

講演会 10月24日(火)

講 師：大学院人間・環境学研究科
教授 海原 徹

テーマ：「京都大学百年-創設のころ-」

会 場：附属図書館AVホール

この展示会は、総合人間学部の所蔵する舎密局から三高までの資料、校印、写真等をパネルおよび資料展示で紹介し、入場者の強い関心を引いた。



展示会場

国立大学図書館協議会公開事業

<展示会>

「幕末・明治期古写真等資料展～忘れられた日本の風景、風俗～」

11月6日(月)から12日(日)まで

会 場：附属図書館展示ホール

<講演会> 11月8日(水)

講 師：国際日本文化研究センター
助教授 白幡 洋三郎

テーマ：「写された幕末・維新」

会 場：附属図書館AVホール

国立大学図書館協議会の公開事業として開催された今回の資料展は、長崎大学の所蔵する多数の古写真のうち、幕末から明治初期の日本各地の写真約100点を展示したものです。また、本館の所蔵する「新聞文庫」の資料も併せて展示し、入場者が約1,500人という盛況であった。



講演会場

図書館のうごき(1)

平成7年度

漢籍担当職員講習会

(電算化)(人文研・東洋学文献センター)

平成7年度

第2回図書館情報システム特別委員会

ILL専門委員会(阪大)

平成7年10月4日(水)

平成7年度

近畿地区国立大学図書館協議会

主題別研究集会(阪大)

平成7年10月13(金)

平成7年度

秋季展示会「舎密局から三高へ」

平成7年10月16日(月)～10月27日(金)

詳細は本文10頁参照

平成7年度

第2回図書館情報システム特別委員会
目録業務システム専門委員会

平成7年10月16日(月)

平成7年度

NACSIS-IR地域講習会

(同志社大学)

10月17日(火)

平成7年度

第1回目録システム地域講習会

平成7年10月24日(火)～10月26日(木)

第1日目午前中は第1回と第2回との合同で講習会が開かれ参加者20名による講習会となった。

平成7年度

秋季展示会講演会

「京都大学百年-創設のころ-」

平成7年10月24日(火)

詳細は本文10頁参照

平成7年度

学術情報センター・シンポジウム

(立命館大学)

平成7年10月25日(水)

平成7年度

第2回目録システム地域講習会

平成7年10月24日(火)

平成7年10月31日(火)～11月2日(木)

平成7年度

国立大学図書館公開事業「幕末・明治
期古写真等資料展～忘れられた日本の
風景, 風俗～」

平成7年11月6日(月)～11月12日(日)

詳細は本文10頁参照

平成7年度

漢籍担当職員講習会

(初級)(人文研・東洋学文献センター)

平成7年11月6日(月)～11月10日(金)

平成7年度

史料管理学研修会

平成7年11月6日(月)

平成7年度

学術情報センターセミナー

(学情センター)

平成7年11月6日(月)～

平成8年3月15日(金)

平成7年度

大学図書館職員講習会(阪大)

平成7年11月7日(火)～11月10日(金)

図書館のうごき(2)

平成7年度
第7回商議会専門委員会

平成7年11月7日(火)

1. CD-ROMデータベースにかかる経費負担等について
 - 1) 平成8年度における「MEDLINE」の経費負担について
 - 2) ネットワークサービスにおける附属図書館と部局等との協力関係について
 - 3) 部局等の負担によるデータベースの提供申し入れについて
2. 附属図書館館内組織の見直しについて「研究開発室」の設置について

学術情報センター主催
「学総目と文編全国調査説明会」
(薬学部講堂)

平成7年11月8日(水)

平成7年度
国立大学図書館公開事業講演会「写された幕末・維新」(AVホール)

平成7年11月8日(水)詳細は本文10頁参照

電子図書館ワーキンググループ

平成7年11月13日(月)

詳細は本文5頁参照



総人図書館見学

近畿地区国公立大学図書館協議会
研修会(神大)

平成7年11月20日(月)

平成7年度
第3回図書館情報システム特別委員会
ILLシステム専門委員会
(阪大)

平成7年11月22日(水)

平成7年度
京都大学監督者(係長)研修

平成7年11月28日(火)~12月1日(金)

次期システム検討委員会

平成7年11月29日(水)

館長部局図書館(室)見学

平成7年11月30日(木)

経済研, 人文研, 教育, 経済

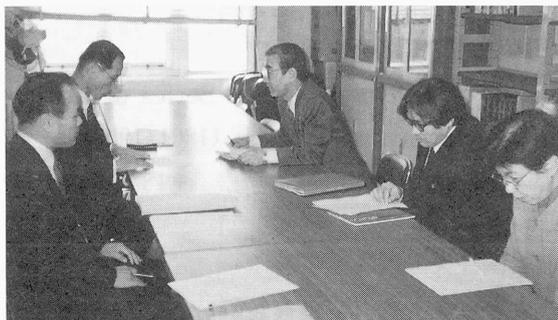
平成7年12月1日(金)

総人, 医学, 薬学, 法学



医学図書館見学

図書館のうごき(3)



法学部図書室見学



薬学部図書室見学

附属図書館入退館システム導入に関する仕様策定委員会の設置

平成7年12月1日(金)

ILLシステム地域講習会

平成7年12月5日(火)～11月6日(水)

部局端末システム担当者会議

平成7年12月7日(木)

ロビーワーキンググループ報告 (ロビー改善案)

平成7年12月7日(木)

詳細は本文7頁参照

平成7年度 第8回商議会専門委員会

平成7年12月8日(金)

1. 副委員長の選出について
2. CD-ROMデータベースのネットワークサービスにおける経費負担について
3. 附属図書館館内組織の見直しについて
4. 平成9年度概算要求について
5. その他

平成7年度 第3回図書館情報システム特別委員会 目録業務システム専門員会

平成7年12月12日(火)

平成7年度 第2回商議会

平成7年12月18日(月)

議事前報告

1. 商議員の交替

議事

1. 前回議事要録の承認について
2. 平成7年度実行予算(案)について
3. 附属図書館商議会専門委員会からの検討経過について
4. 附属図書館研究開発室の設置について
5. CD-ROMソフト受入サービスにかかる要項の制定について
6. 平成9年度概算要求方針について
7. その他

館長から田中元子氏へ遺児育英資金を贈呈

平成7年12月21日(木)

7月に逝去された田中藤雄氏の遺児育英資金は全国135機関1,077名の協力を得て271万円に達し、館長から遺族(夫人)に手渡された。

図書館のうごき(4)

全国共同利用図書資料

(大型コレクション)の利用案内について

このたび下記大学図書館より、全国共同利用資料(大型コレクション)について利用案内が送付されて来ましたので、お知らせいたします。

なお、コレクションの内容につきましては、附属図書館参考コーナーにリストがありますので、ご参照下さい。

豊橋技術科学大学附属図書館

「19世紀英国議会文書

(Irish University Press Series of British Parliamentary Papers (1801-1900)

: Blue Book)」 *内容明細あり

横浜国立大学附属図書館

「東寺百合文書(写真複製版)

い函 - 乙外函」

寄贈図書資料紹介

Stable Isotopes in The Biosphere
/和田 英太郎(生態セ)

Structure and Function of Soul
Communities
/阿部 琢哉(生態セ)

水滸伝 第1・2・3巻
/清水 茂(名誉教授)

Japanese Farming:Past and Present
/飯沼 二郎(名誉教授)

上山春平著作集
第3巻 革命と戦争
第9巻 創造的な思想家たち
/上山 春平(名誉教授)

一九二〇年代の中国
/狭間 直樹(人文研)

Shirahama Oceanographic Observatory
1981-1995

/中村 重久(防研)

類型学序説
/山口 巖(人環)

ローマ皇帝とその時代
/南川 高志(文学部)

ハイパーメディアとオブジェクトベース
(分散協調メディアシリーズ4)
/上林 弥彦(工学部)

物質科学の新しい展開
ゴム材料科学序論
/鞠谷信三(化研)

れんとげん投影写真帖(復刻)
レントゲン氏X線放射線の話(復刻)
レントゲン その人と物理学の発展
/清水 榮(名誉教授)

Multiphase Flow 1995:
Proceedings of the Second
International Conference on
MultiphaseFlow Kyoto, Japan,

April 3-7, 1995

／芹澤 昭示 (工学部)

📖 The Emergence of the Abbasid
Autocracy '95

／京都大学学術出版会

📖 ミミズのダンスが大地を潤す

／渡辺 弘之 (農学部)

📖 貝原益軒 天地和楽の文明学

／横山 俊夫 (人文研)

目

＜巻頭言＞

- ・もっとよくなる, もっとよくなる
京大図書館…………… 1
- ・一つの業務改善の試み
— 附属図書館相互利用掛 —…………… 2
- ・電子図書館ワーキンググループ
の活動について…………… 5
- ・附属図書館が変わります!…………… 7
- ・図書館利用証もかわります…………… 7
- ・教育研究学内特別経費で図書 of 充実…………… 8
- ・平成7年度図書資料 (大型コレクション)
購入決定…………… 8
- ・洋図書の廻及入力作業について…………… 8
- ・「研究開発室」(仮称)の設置について…………… 9
- ・マルチメディア端末クラスタの設置
について…………… 9
- ・京都大学インターネット講習会開催…………… 10
- ・平成7年度展示会報告…………… 10
- ＜図書館の動き＞…………… 11
- ・平成7年度漢籍担当職員講習会 (電算)
- ・第2回図書館情報システム特別委員会
ILL 専門委員会 (阪大)
- ・平成7年度近畿地区国立大学図書館協議会主
題別研究集会
- ・平成7年度秋季展示会「舎密局から三高へ」
- ・平成7年度第2回図書館情報システム特別委
員会目録業務システム専門委員会
- ・平成7年度 NACSIS-IR 地域講習会
- ・平成7年度第1回目録システム地域講習会

次

- ・平成7年度学術情報センター・シンポジウム
(立命館大学)
- ・平成7年度秋季展示会講演会
- ・平成7年度第2回目録システム地域講習会
- ・平成7年度国立大学図書館公開事業
- ・平成7年度漢籍担当職員講習会 (初級)
- ・平成7年度史料管理学研修会
- ・平成7年度学術情報センターセミナー (学情セ
ンター)
- ・平成7年度大学図書館職員講習会 (阪大)
- ・平成7年度第7回商議会専門委員会
- ・学術情報センター主催
- ・「学総目と文編全国調査説明会」(薬学部講堂)
- ・平成7年度国立大学図書館公開事業講演会
- ・電子図書館ワーキンググループ
- ・近畿地区国公立大学図書館協議会研修会
- ・平成7年度第3回図書館情報システム特別委員会
ILLシステム専門委員会
- ・平成7年度京都大学監督者 (係長) 研修
- ・次期システム検討委員会
- ・館長部局図書館 (室) 見学
- ・附属図書館入退館システム導入に関する仕様
策定委員会の設置
- ・ILLシステム地域講習会
- ・部局端末システム担当者会議
- ・ロビーワーキンググループ報告
- ・第8回商議会専門委員会
- ・平成7年度第3回図書館情報システム特別委
員会目録業務システム専門委員会

- ・平成7年度第2回商議会
- ・館長から田中元子氏へ遺児育英資金を贈呈
- ・全国共同利用図書資料
(大型コレクション)の利用案内について

- <寄贈図書資料紹介>.....14
- <目次>.....15
- ・図書館カレンダー.....16
- ・後記.....16

図書館カレンダー

- 1月1日(月)～3日(水) 年始休館日
- 1月4日(木)～5日(金) 図書整理等による休館
- 1月6日(土) 開館
- 1月15日(月) 休館(成人の日)
- 1月31日(水) 休館(月末休館)
- 2月12日(月) 休館(建国記念日振替)
- 2月29日(木) 休館(月末休館)
- 3月20日(水) 休館(春分の日)

後記

平成7年度学内10大ニュースとして事務局があげた中で「日曜開館」が9位に、又京大学生新聞の選んだものでは同じく「日曜開館」が5位に選ばれた。「日曜開館」が利用者から高く評価されたことは図書館サービスの向上に心がける図書館職員にとって大変喜ばしい事である。
(モ)

京都大学附属図書館「静脩」

Vol. 32, No.3 (通巻120号)

発行：1995年12月28日

編集：静脩編集委員会

(責任者 附属図書館事務部長)

発行：京都大学附属図書館

京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2613